

● 中期目標と実績

【グループ中期目標】

■ 地球温暖化防止の2015年度目標(2013年度-2015年度)

電力使用量： 2009年度比 5.5%削減

燃料由来CO₂：2009年度比 7.5%削減

※ 国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー

※ 比較可能な期間内継続稼働事業ベース(廃止・新設等による増減は含めない)

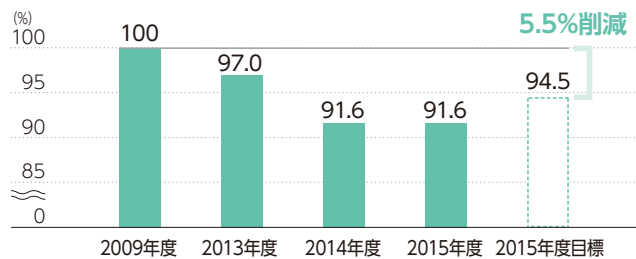
■ 持続可能な資源循環の推進

食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率 99%の達成・維持

● 2015年度実績

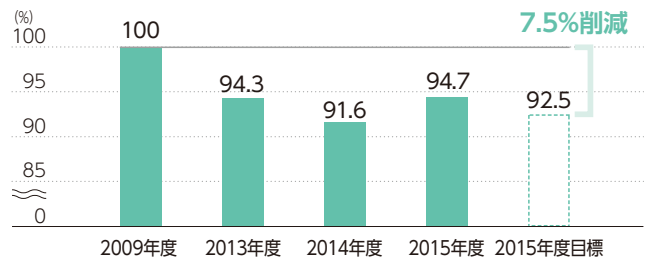
【地球温暖化防止】

○ 既存事業所電力使用量



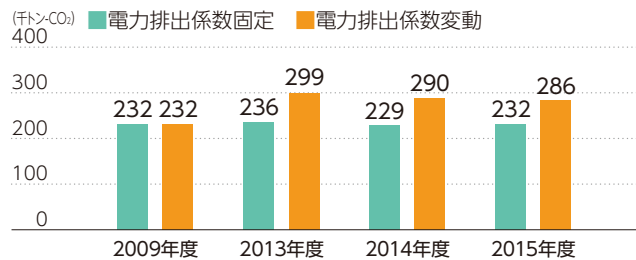
1 2009年度を基準年(100%)としている。
2 新設事業所を含む総電力使用量は、2009年度：446GWh、2013年度：455GWh、2014年度：439GWh、2015年度：445GWh

○ 既存事業所燃料由来CO₂排出量



1 2009年度を基準年(100%)としている。
2 新設事業所を含む総排出量は、2009年度：41千トン、2013年度：41千トン、2014年度：41千トン、2015年度：43千トン

○ ニチレイグループCO₂排出量の推移



1 電力排出係数固定：CO₂排出量算定のための算出係数を2009年度に固定した場合
2 電力排出係数変動：上記を地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき変動させた場合

気候変動の影響を大きく受ける“食”に関わる企業グループとして事業所におけるCO₂排出削減に取り組んでいます。

2011年の震災以降、火力発電の増加により電力排出係数が大きくなり、電力使用量を削減してもCO₂排出量が減少するとは限らない状況となっています。そのため、ニチレイグループの中期目標(2013年度～2015年度)は、電力使用量そのものと燃料由来CO₂排出量の2つに分けて削減目標を設定しました。

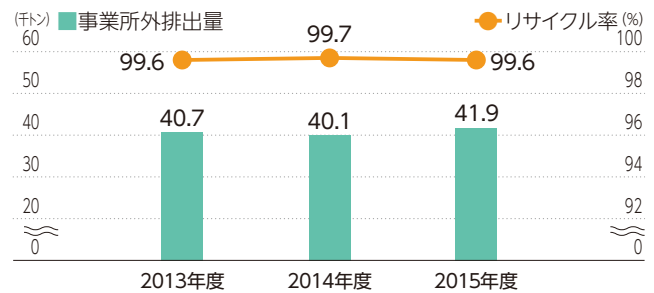
対象は、基準年である2009年度と直接比較が可能な事業所としています。新設事業所については、省エネ設備導入を推進するとともに、事業会社の状況に合わせて個別に目標を掲げています。

2015年度の既存事業所における電力使用量は、各事業所で省エネ設備への更新や機器の効率運転などの運用見直しなどに取り組んだ結果、2009年度比で目標を上回る8.4%削減しました。また、2015年度の既存事業所における燃料由来CO₂排出量は、食品工場のボイラー燃料転換などが成果を上げましたが、生産量の増加などによってCO₂排出量が増加し、2009年度比で5.3%削減にとどまりました。2015年度のグループCO₂排出量は、電力排出係数の上昇、事業所の新設などにより2009年度比で23.4%増加しました。しかしながら、係数を2009年度で固定して比較した場合は、0.1%の削減となっています。

【持続可能な資源循環の推進】

限られた地球上の資源をできるだけ継続的に利用していくため、廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取り組んでいます。また、“食”に関わる企業グループとして地球からの恵みである生物資源を効率的に無駄なく使うこと、使い切ることができなかったものも飼料や肥料などに再利用し循環させていくことにも注力しています。各事業会社が、廃棄物の排出量削減およびリサイクル率の維持・向上を継続推進し、2015年度の事業所外排出量は41.9千トンとなり、リサイクル率は99.6%となりました。現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合がありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

○ ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



今後の目標

2015年12月に気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)が開催され、「パリ協定」が採択されました。東日本大震災以降、火力発電への依存度が高まっている日本に対しても、温暖化防止に向けた積極的な取り組みが期待されています。これを踏まえ、次期中期目標の策定に当たり、電力使用量と燃料由来CO₂排出量の削減目標からCO₂総排出量の削減目標に変更しました。対象範囲は、期間内継続稼働事業所(既存事業所)から国内全事業所(新設事業所含む)としました。

廃棄物リサイクル率については、99%以上の維持に継続して取り組み、国内の食品工場では動植物性残さの削減にも取り組んでいきます。

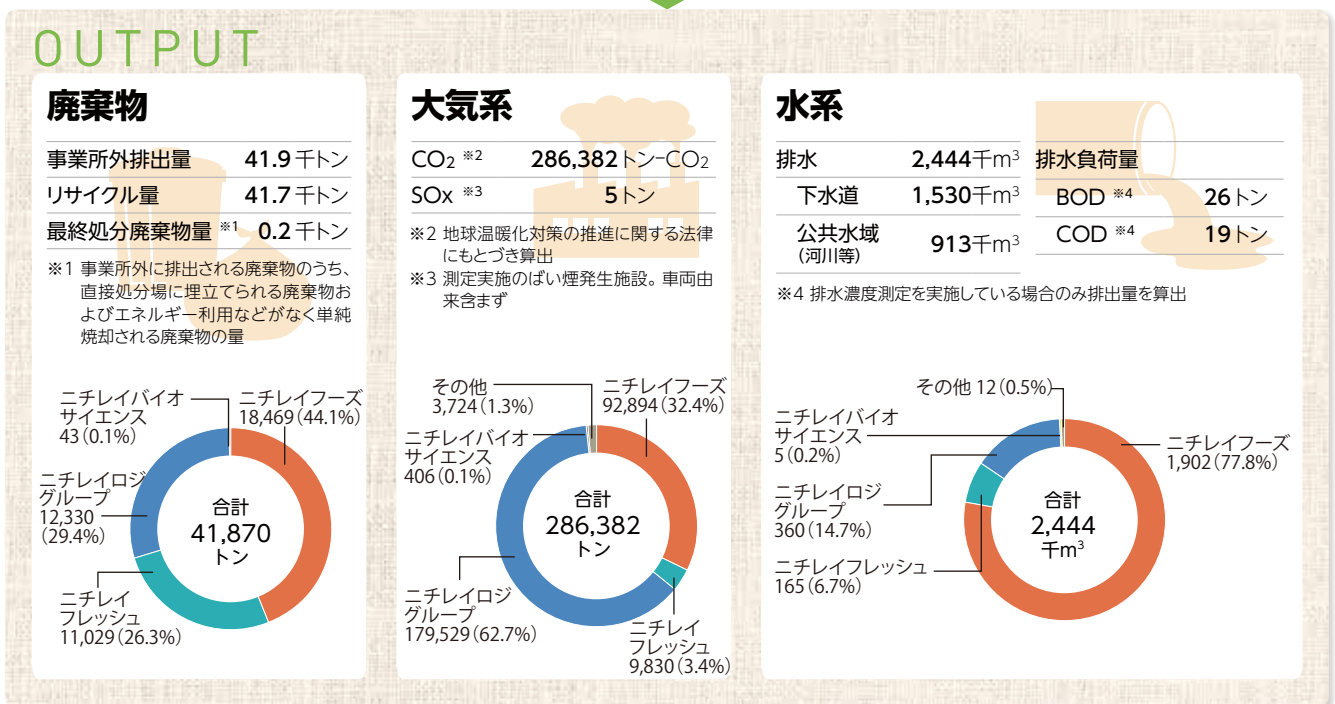
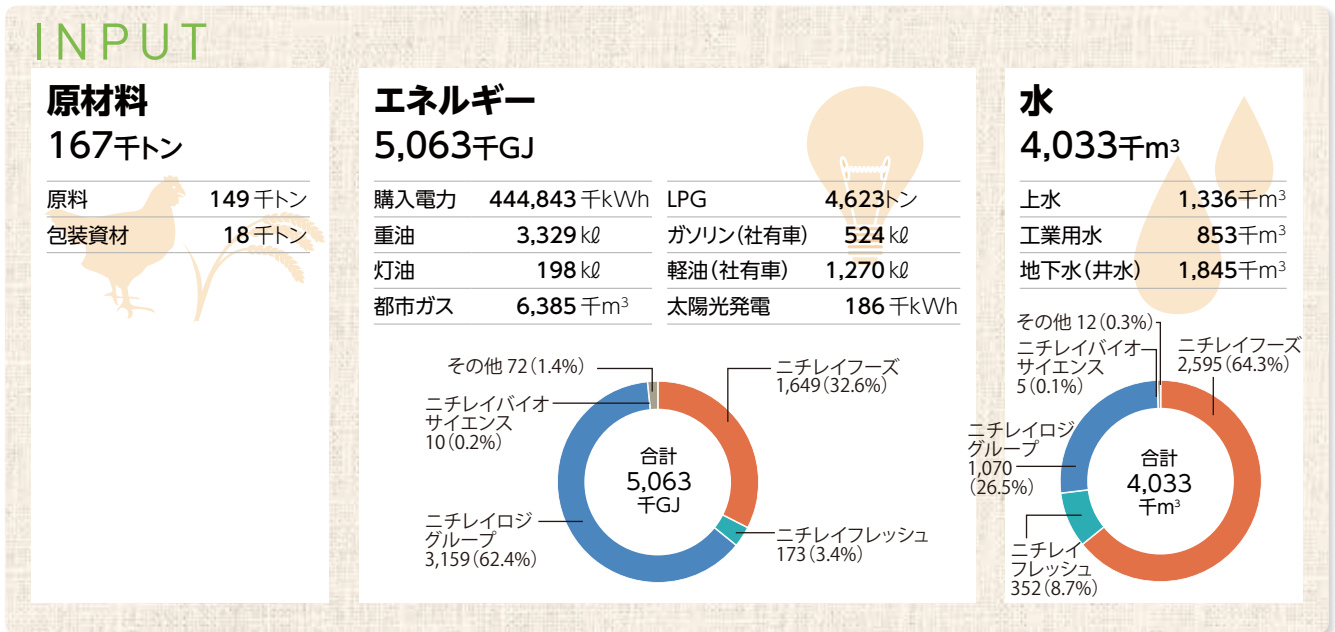
水資源の保全については、“食”に関わる企業グループとして地球の恵みを次世代に引き継ぐために取り組みを進めていきます。また、「海外事業所における環境に関するデータの収集」についてもグループ全体で取り組んでいきます。

○ グループ環境中期目標 (2016年度～2018年度)

項目	内容
CO ₂ 排出量の削減	グループ(国内)のエネルギー起源CO ₂ 排出量 2018年度末までに2009年度実績比2.4%削減 ※国内事業所および所有車両で使用するエネルギー ※購入電力由来のCO ₂ 算出係数は2009年度固定
廃棄物のリサイクル率維持と発生抑制	・食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率99%以上の維持 ・動植物性残さの削減に取り組む(国内の食品工場)
水資源の保全	各地域の水を取り巻く環境事情を考慮し、持続可能な水利用に向け、効率的な水利用を通じて、水資源の保全に取り組む(国内の食品工場)

- ・ 海外事業所における環境に関するデータの収集に取り組む

● 2015年度の環境負荷の全体像(マテリアルバランス)



※ 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。

● 2015年度実績集計対象事業所

下記各社の食品工場、物流センターなどを集計対象としている。事業所数が複数ある場合は()内に数を記載。

ニチレイフーズ	(株)ニチレイフーズ(8)、千葉畜産工業(株)、(株)ニチレイ・アイス(3)、(株)中冷、(株)キューレイ、(株)フクミツ、ベジポート有限責任事業組合
ニチレイフレッシュ	(株)フレッシュまるいち(4)、(株)ニチレイフレッシュプロセス(2)、(株)ニチレイフレッシュファーム、(株)フレッシュチキン軽米、(株)フレッシュミート佐久平
ニチレイロジグループ	(株)ロジスティクス・ネットワーク(33)、(株)NKTランス(3)、(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道(7)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東北(4)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関東(10)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東海(10)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関西(13)、(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国(12)、(株)ニチレイ・ロジスティクス九州(13)、(株)キョクレイ(4)
ニチレイバイオサイエンス	開発センター
その他	(株)ニューハウジング

※エネルギー使用量、CO₂排出量については、上記以外の本社や支店などのオフィスの活動、自社所有トラックによるものを含む。
※海外事業所は含まない。